

日光小 清滝小 新校舎の落成を祝う

六月十日に日光小学校で、六月十九日に清滝小学校でそれぞれ校舎の落成式が行われました。

落成式のと、日光小学校では同校の建設委員会が、また、清滝小学校では、祝賀会実行委員会が主催し、落成祝賀会を行い、参加者は新校舎の完成を喜び合いました。

日光小学校は、総工費約十二億
▲⑥ 日光小学校 ⑤ 清滝小学校

円で新築されたもので、本校舎は

鉄筋コンクリート三階建て（一部二階）五千八百九十八平方メートル。普通教室二十と理科室、音楽室などの特別教室が十教室あります。そのほか、屋根にソーラーシステムを取り付けた約千平方メートルの屋内運動場とプールも完備されています。校庭も、野球場、二百メートルトラック、サッカーコートなどを備え、市内の小・中学校の中では最も広

い校庭になっています。

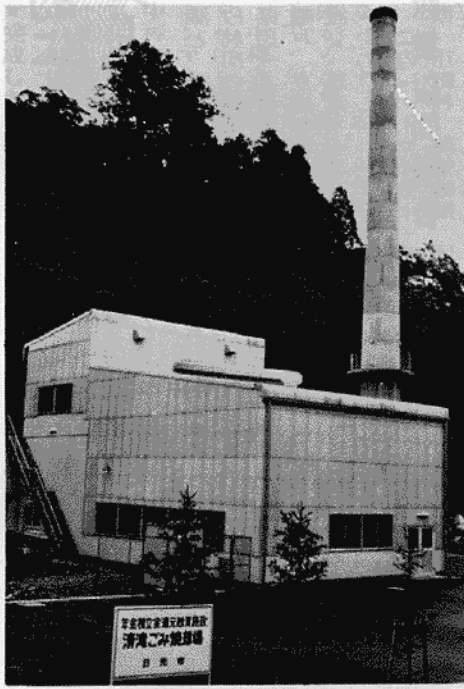
一方、清滝小学校の校舎は、総工費約一億六千五百万円で木造校舎を改築したもので、鉄筋コンクリート二階建て九百三十五平方メートルの特別教室だけの校舎です。この新校舎は、一階に給食室、会議室（食堂兼用）、研修室、保健室、二階には図書室、視聴覚室、資料室があり、近代的な施設設備を持ったものとなっています。

清滝ごみ 焼却場 本格的に運転開始

一日十五トン処理

六月二十三日午前十一時から、斎藤市長はじめ関係者約三十人が出席し、清滝ごみ焼却場の落成式

が行われました。これまでの焼却場が老朽化し焼却能力も低下してきたために代替



旧焼却場近く取壊し

新焼却場が完成し、運転が開始されたことよって、昭和四十年に建設以来十七年間にわたって地域のごみ処理に活躍してきた旧焼却場は、その使命を果たし、近く姿を消すことになりました。

▲本格的な運転を開始した焼却場

られ、「巖三曼多洲」と称していた。これは、川の流れを唱えるように響くため、その初めの音を取って名づけられたものといわれる。

晃海は、この因縁に基き洲の北岸（現在の東京大学附属植物園側）に二万余の不動明王の石像を立てた。併せて、洲の名を慈救呪最後の句の「カンマン」をとり、憾満が洲と名づけたという。そして、不動明王の下、岩の中央部には、三順僧上の書による「カンマン」の大梵字の薄彫りがあり、「弘法の投筆」とも呼ばれ、知られている。また、対岸南の岩の上に護摩堂を建立し、霊庇閣と名づけた。さらに、この川沿いに、慈眼大師の門弟をはじめ、有縁の僧俗が、過去万霊自己菩提のために親地蔵及び石地蔵を作った。「並地蔵」「百地蔵」「化地蔵」などと呼ばれている。

このような豊勝の地も、明治三十五年の水害などで旧観を失い、加えて明治以後、慈雲寺の廃絶により霊地も荒廃するにまかせ、往時の隆盛をしのぶよすがもない。（昭和四十四年十一月、日光市文化財に指定）
この含満が洲周辺は、昭和四十六年から整備が進められています。